

第3回信州アディクションセミナー報告書

2012年10月17日

信州アディクションセミナー実行委員会 事務局

下記のように第3回信州アディクションセミナーを開催しましたので、報告します。

1. 日時、場所

2012年9月17日(月・祝) 10:00~17:00

松本市Mウィング(中央公民館)(長野県松本市中央1-18-1)

2. 参加人数

参加人数 230人 託児数 10人 アンケート回収数 60

3. 参加者のプロフィール(アンケートより)

男女比

男性 57%、女性 43%。

年代

40代が最多。20代~70代まで幅広く。未成年者の参加は託児を除けばありませんでした。
(20代~30代は、援助職の女性の参加が目立ちました)

居所

開催地のある中信地方(長野県中央部)が40%。その他長野県内全域から15%。45%は県外から参加(年々県外からの参加が増加している)

立場

アディクション本人が50%。家族が11%。専門家・援助職が25%。その他一般が8%。無回答6%。

目的

参加目的を複数回答で尋ねたところ、アディクションに関する情報を求める人が2/3と最多でした。自助グループに関する情報を求める人が1/3。相談先についての情報を求めた人は少数でした。また、自由記述からは県外から「メッセージ活動のため」という回答がありました。

メッセージ活動：相互援助(自助)グループで得たものを新しい人に渡す努力をすることで、自らの回復をより強固なものにしていく活動。

認知機会

セミナーの開催をどこで知ったか尋ねたところ、2/3が人に教えられたり誘われたりしたと回答しました。内訳は相互援助(自助)グループが最も多く、ついで医療・相談機関、家族の順です。

1 / 4 は医療機関・相談機関でのポスターや配布されたチラシを見てきた人でした。インターネット上の情報に接した人は2割ほどでした。

新聞のイベント欄やNHKで知ったという人も1割ありました。

4. 効果

午前中は、アディクションからの回復とグループの効果について、田辺等先生に講演をしていただきました。アンケートの感想からは先生の話がわかりやすいと好評だったことがうかがえます。

午後の各団体の体験発表、分科会にも多数の参加者がありました。アンケート回答からは半数以上が既に相互援助（自助）グループに参加していましたが、未参加の人の中にも今後参加したいという回答が多く、誘導効果が認められました。

感想詳細については、別紙アンケート集計をご覧ください。

5. 反省点

アンケートからは家族の参加が1割と少なく、また来場目的にも相談先を求める人が少ないことから、現在身内のアディクションの問題に悩む家族へのアウトリーチが不足していることがうかがえます。

6. 当日実施内容

午前のプログラム

基調講演（90分）

『アディクションからの回復 グループが変わる、グループで変わる』

北海道立精神保健福祉センター

センター長 医師 田辺等

質疑応答（20分）

午後のプログラム

体験発表実施団体（15分×11団体）

ナラノン、ギャマノン、AA、pirka、リカバリー・パレード、RD デイケアセンター、あずみ野断酒会、NA、GA、DA、依存症からの回復研究会

分科会実施団体（90分、12団体）

DA、依存症からの回復研究会、SCA、ACoA、NA、GA、リカバリー・パレード、AA、RD デイケアセンター、ナラノン、ギャマノン、SA 女性クローズド

アピールタイム参加団体（5団体）

リカバリー・パレード、GA、AA、ジャパンマック

配布資料集

各団体から提供いただいた資料を A4 サイズ封筒に同封

長野県内の団体

AA、ACODA、GA、NA、pirka、ギヤマノン、佐久家族会（中込自助グループ）、ジョイフル（しおじり若者サポートステーション）、てくてく、長野 NABA、長野ダルク

県外の団体

ACoA、AG、AKK、DA、HA、NABA、SA（SA 女性クローズド）、SCA、SLAA、あびこミーティング、浦和まはろ相談室、ナラノン、ジャパンマック（みのわマック・RD デイケアセンター・全国マック協議会）、リカバリーサポート・ネットワーク、リカバリー・パレード

当日各団体配付資料多数

その他

託児を実施（10 名）

7．報道（新聞掲載・テレビラジオ放送）

告知記事：信濃毎日新聞（9 月 13 日朝刊）

告知欄掲載：毎日新聞・中日新聞・しんぶん赤旗・市民タイムス

告知放送：NHK（長野支局）

ニュース報道：長野朝日放送（9 月 17 日 abn ステーション報道）

ニュース掲載：市民タイムス（9 月 18 日朝刊）

8．実行委員会活動

実行委員会メンバー 20 人（含む事務局 2 人）

内訳：アルコール本人 8 人、アルコール家族 1 人、薬物本人 1 人、ギャンブル本人 4 人、ギャンブル家族 4 人、アダルトチルドレン 2 人。

この他、長野ダルク、ジョイフル、てくてくほか様々な皆さんに協力をいただきました。

また当日は実行委員会の枠を越えて、多数の方々にご協力をいただきました。

実行委員会開催（松本市西部公民館）

2011 年 10/23、11/27、12/18

2012 年 1/15、2/26、3/25、4/22、5/27、6/24、7/29、8/26、9/9

印刷作業 9/5（松本市市民活動サポートセンター）

9. 共催・協賛・後援

主催：信州アディクションセミナー実行委員会

共催：松本市

協賛：信州嗜癮医療福祉研究会

後援：長野県精神保健福祉センター・長野市

長野県社会福祉協議会・長野市社会福祉協議会・松本市社会福祉協議会・

10. 謝辞

当日会場まで足を運んで下さった多くの皆様に感謝申し上げます。参加いただいた団体の皆さん、資料提供をいただいた団体の皆様に感謝いたします。様々な医療機関、相談機関、行政機関、相互援助（自助）グループの方々、また信州アディクションセミナーを応援して下さる方が、広報に協力していただきました。またマスメディアの方々にもご協力をいただきました。それぞれに感謝申し上げます。

共催の松本市からは会場を提供していただきました。信州嗜癮医療福祉研究会からは協賛金をいただきました。長野県精神保健福祉センター、長野市、長野県社会福祉協議会、長野市社会福祉協議会、松本市社会福祉協議会からはご後援をいただきました。それぞれに感謝申し上げます。

会場にて募金をくださった皆様、また実行委員会に寄付をいただいた皆様に、感謝申し上げます。

今後も毎年開催を続けてまいりますので、皆様におかれましてはなにとぞ引き続きのご協力をお願いいたします。

実行委員会一同